

防護柵取替工の作業手順

制定・改定日 2022.2.18

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容、規制内容の確認 作業人員の確認 保護具の確認 使用機械、資材、工具の点検 埋設ケーブル、車両配置の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による、KY活動 作業別安全チェックシートの活用 クレーン付トラックのアウトリガー最大張り出しの確認 敷き板の確認
既設防護柵撤去	<ul style="list-style-type: none"> 破損した既設ガードレール、(ケーブル)を撤去する。 	<ul style="list-style-type: none"> レール、ケーブルの跳ね返り等を十分確認し注意する。 外した防護柵は、現場内の邪魔にならない箇所に整理整頓し一カ所にまとめて置く。 ボルト、ナットの飛散防止を行う。
試 掘	<ul style="list-style-type: none"> 埋設ケーブルがある場合は、損傷防止の為、必ず試掘を行う。 支柱の傾き修正は、試掘不要 埋設標を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部署の立ち会いのもと、埋設管を傷つけない様に、人力にて掘削を行う。 立ち会い者が来てから作業を行う。
既設防護柵支柱撤去	<ul style="list-style-type: none"> 破損した支柱は、支柱の根本へワイヤーを掛けクレーンを使用してゆっくり引き抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き抜き用のワイヤーは、使用の都度点検する。 引き抜き支柱の飛び上がりに注意し、作業員は不用意に近づかない。 また、近接に道路施設等構造物がある場合は、コンパネ等で防護処置を行う。 引き抜いた後、穴が崩れない様、注意する。
防護柵取付	<ul style="list-style-type: none"> 支柱、ガードレール等の取付を行う。 支柱は、打ち込み機を使用し所定の高さまで打ち込む。 打ち込んだ支柱は、高さ、方向を確認する。 支柱の傾き修正は、クレーンと滑車を使い、傾きを確認しながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ガードレールを持つときは、声を掛け合い姿勢など十分注意をする。 重量物を取り扱う時は、複数的人数で持つか、ユニックを使用する。 クレーン等の作業半径内は十分注意し有資格者による作業を行う。 ナイロンスリングの点検 (使用期限・ほつれ具合・耐荷重の確認を実施する)
発生材の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 発生材検測を行う。 発生材をトラックに積み込む。 	<ul style="list-style-type: none"> クレーン等の作業半径内は十分注意し有資格者による作業を行う。 吊り荷の下へは絶対に入らない。 必ず二人以上で作業を行う。 吊り荷の確実な玉掛け
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料を片付け、最後に竹ぼうきで清掃する。 取替数量の確認できる写真をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 ボルトの一本まで落ちていないか確認する。

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
作業責任者	1 名	打ち込み機		防護柵材料		ヘルメット	保護メガネ
現場監視員	1 名	インパクト		ラジエット		反射(自発光)チョッキ	防塵マスク
作業員	3 名	スコップ		ワイヤー		反射スパッツ	耳栓
		大ハンマー		帯		発煙筒	
		発電機				黄旗	
						警笛	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 1.機械作業は、有資格者が操作を行う。
- 2.ガードレール等重量物は、足などへの落下に十分注意をする。
- 3.取り外しの時は、特に方向、跳ねに注意をし必ず声を掛ける。
- 4.通信ケーブルの確認は必ず行い、立ち会い確認を受ける。
- 5.吊り荷の下へは絶対に入らない。
- 6.ワイヤー・ナイロンスリングの点検をする。
※火気の取扱いに注意。消化器の設置
- 7.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 8.一人作業の禁止